



手入れの行届いた山林

**問** 少子化対策  
夢基金は

**答** 20年度以降に  
寄付条例を検討

創政会代表

岡田 初雄 議員

**問** 少子化対策は、宍粟市の将来を想う時、市民すべての重要な課題であります。全国各地でその対策に知恵が出されています。6月議会において、「基金の財源を企業、市民等の協力を得、市も含めた三者一体での創設を」の質問にも検討をいたしました。次年度へ向けた条例の制定を望みますが。

**市長** 基金を創設するにあたり市民、企業等に寄付を募る場合、寄付者の意向が充分反映され、その使途についても、配慮する必要があります。寄付を募る為の寄付条例の制定も含めて、20年度以降の少子化対策事業を検討していきたいと考えています。

**市長** 緊急課題や重点施策に要するものは、今日まで積極的に取り組んで参りました結果、主要施策、主要事業は概ね計画どおりに進捗しています。国、県の補助事業の見通しは先般の国政選挙の結果により、今後の動向が注目される所ですが、概ね当初の計画に沿ったものになると思っています。引き続き、要望等を機会あるごとに行って参ります。

**問** 平成19年度も5ヶ月が経過し、主要施策、主要事業の検証と、今後の見通しは、当初の計画どおりに実施できますか。合わせて、国、県の補助事業も本格的に決定される時期でもあります。当初の計画に沿ったものとなりますか。

**市長** 本年度は、これまでの2年間の礎づくりを受け、市の将来の実現に向けた「決断と実行」、「ステップアップ宍粟」と位置づけ、厳しい財政状況の中で、徹底した行財政改革に取り組む一方で、参画と協働のまちづくりを基本に、

為の森林認証の取得、緑税活用事業は、緊急防災林整備、里山防災林整備、野生動物育成林整備等これらの事業に取り組んでいます。地域情報化の推進は、地域における情報の格差を解消する為の事業で、現在までにその概要を説明しています。行財政改革に係る事務事業評価について、無駄、市民の満足手法、検証の中で改善に取り組んでいます。

**問** 中学3年生まで  
医療費無料拡充を

**答** 今では考えて  
いない

宍粟市議会

日本共産党議員団代表

山根 昇 議員

**問** 日本共産党の立場は  
綱領・規約で明記して

いる。地方政治では「住民が主人公」を貫き住民の利益への奉仕を最優先の課題とする地方自治の確立をめざしている。「政治とカネ」の問題では、汚職・腐敗・利権政治を根絶するために、企業・団体献金を禁止することをめざし、実行している。首長・議員が逮捕・勾留された時、給与や報酬を一時差し止める条例改正が必要ではないか。議員については、共産党議員団として改正条例案提案を準備している。

**市長** 給与の差し止めは法律的に問題があり、無理である。政治倫理には自ら厳しく律している。「中元・歳暮」の受け取りは配達業者にも辞退を言っている。

**問** 同和関連で不適切な  
公金支出が問題になっ  
ている。わが党は、同和差  
別の解決に「体を張って」  
闘ってきた歴史がある。市

日本共産党の立場は、県産木材供給センターの誘致、現在最終選考の段階にあります。宍粟材の利用推進には、宍粟材のブランド化を図る